

若者たちのめざましい活躍

～高専生・若き高専 OB の勉強会 “高専カンファレンス” と 総務省・NICT の若者支援プログラム “起業家甲子園”～

東京都立航空工業高等専門学校 名誉教授（元校長）
財団法人日本無線協会 専務理事 島田 一雄
東京都立産業技術高等専門学校 情報通信工学コース
教授 鈴木 弘
独立行政法人情報通信研究機構 産業振興部門
事業化支援室長 佐々木 洋



新春・高専カンファレンス 2012 in 東京

はじめに

2012年1月14、15日、東京荒川区の都立産業技術高専（旧都立航空高専）で第40回高専カンファレンスが開催され、全国から集まった250名を超す現役の高専生と高専を卒業して10年未満の若い高専OBを中心とする高専OB、さらには高専応援者の非常に熱い交流が行われた。4年前に東京で産声を上げた高専カンファレンスは、いまやMonthlyといっても過言でない程、全国のどこかで開催されるまでに発展してきており、自律的な若き高専パワーはすさまじい。

一方、2012年3月6日、東京大手町の日経カンファレンスルームで独立行政法人情報通信研究機構（NICT）主催の起業家候補生によるビジネスプランコンテスト全国大会“起業家甲子園”が開催され、予選を勝ち抜いた高専生・大学生・大学院生による7件のユニークなプランの発表が行われ、自身が起業家でもある若き審査員との間での活発な質疑応答が展開され、会場は一体となり、熱く燃えた。

ここでは、上記のパワフルな若者たちの活躍の一端を紹介する。

“高専カンファレンス” ことのおこりとその運営

高専カンファレンスは、4年前の2008年4月1日の大日向大地さん（長野高専2002年卒、高専カンファレンス実行委員会代表）のブログの書き込みに端を発する、20歳～30歳の主としてICT分野で働く若い高専OBと現役高専生によるプレゼン型勉強会である。通常は土曜午後の開催で、高専生活、工学、ICT、工業デザイン、理学、経営など広範に及ぶ多様なテーマについて、一般発表（15分間）とLighting Talk（5分間）、時には特別講演が行われ、最近ではブース展示も取り入れられている。高専をバックボーンとする参加者は、ワクワク感を共有、意気投合し、楽しく学び

合っており、懇親会が必ず開かれ、所属・出身高専や現役・OBの枠を越えた交流の輪が次々と広がっていることは大変意義深い。高専の良さを知ってもらうために高専関係者以外の方の参加も歓迎している。会場への参加者は平均的に50名前後であるが、必ず、ライブ中継（チャット付き）を行っており、30名前後のアクセスがあるという。また、You Tubeなどの中継動画やスライド資料がアップロードされている等、ICTをフル活用した現代的な運営を行っているところは高く評価できる。

2008年6月に第1回が東京で開催され、その後は、第1回の主催者の心配をよそに、前回の参加者が「次回は自分のところでやりたい」と名乗りをあげ、次々と自律的に開催場所が決まっていくなかでスタイルが定着したことは、高専カンファレンスの発展のために大変素晴らしいことである。各回の開催実行委員長は協力スタッフ、発表者、参加者をインターネットで公募、スタッフMLとミーティングで企画・運営等の準備を進めている。2009年4月には、外部との関係、各地での開催の支援・調整、開催チュートリアル作成・共有等のために、高専カンファレンス実行委員会をつくり、定款を定め、代表・副代表・幹事・顧問の役員をおき、彼らが開催の支援を行う運営方式をとって来た。全高専カンファレンスメンバーが加わるML等により、密なコミュニケーションがとられており、情報の共有が図られている。なお、高専カンファレンス実行委員会は2012年4月から高専カンファレンス事務局と名称が変更され、会則も刷新された。

高専カンファレンス Wiki [1] は、高専カンファレンスの開催予定、開催結果、運営等何でも分かる情報満載の高専カンファレンスのバイブル的なHPで、読者の方には是非、一度覗いて、若い彼らのエネルギッシュな活躍を知っていただきたい。

高専カンファレンスの開催状況

2012年3月末までで通算42回の高専カンファレンスが、東京(11回:以下数字は回数)、北海道(2)、東北(4)、関東(3)、信越(3)、北陸(4)、東海(4)、関西(6)、山陰(1)、四国(1)、九州(3)の全国各地で開催されている。なお、これらの中には、2010年9月に第1回が開かれた女性のための「高専女子カンファレンス」(実行委員長:長野高専2001年卒の薄谷ひとみさん、後東京、石川で開催)、「理学カンファレンス」、「ロボコンストカンファレンス」、NICT主催の「t-cup チャレンジ時の甲子園 in 小金井」[2]の出場3高専の学生を迎えての「t-Cup Party」など内容が限定的なものも含まれている。2008年6月～2009年12月までの間は、最初は3か月であった開催スパンが2か月、1か月と短くなり、開催頻度が増えている。2010年には毎月開催・同日2会場開催などで計10回、2011年には毎週～毎月・同日3会場開催などで計20回も開催され、猛スピードで自律的に全国へ高専カンファレンスが広がってきている。延べ会場参加人数は3000名近く、ライブ視聴者も1000名を超える勢いである。また、高専カンファレンス Wiki でアクセス可能な過去のカンファレンスの動画・スライド・写真等の視聴者を入れると、延べ5000名近くの人が高専カンファレンスに関わったと思われる。第1回高専カンファレンスの模様を写真1に示す。これまでの発表総数は、約600件に及び、発表内容も非常に多岐にわたっている。

2012年4月以降についてもすでに、東京(4月)、東海(5月)、関西(5月)、信越(6月)、東海(7月)、北海道(8月)、関西(8月)、山陰(9月)、東海(2013年3月)の開催が告知されている。さらに、第1回の開催日6月14日を挟む6月9日～19日の間、オンライン上での記念イベント「高専カンファレンスエフェクト」[3]をやるうとの開催宣言が4月1日に大和田純さん(釧路高専2004年卒、高専カンファレンス実行委員会副代表)からMLに流され、そのユニークさにびっくり、エイプリルフールでは?と疑った。



写真1 第1回高専カンファレンス(撮影:川手俊憲)

大規模な高専カンファレンスの開催

2009年2月に、高専カンファレンス実行委員会が100名規模の参加者を収容できる場所を探していると

の情報が私(島田)の耳に入ったので、都立産技高専荒川キャンパス(旧航空高専)のホール使用を提案し、3月初めの超小型衛星の打ち上げ記念講演会に多田彰さん(詫間電波高専1989年卒)と大和田純さんに下見を兼ねて参加願い、校長にも会っていただいたことが大規模カンファレンス開催の原点である。かくして6月のキックオフミーティングで準備が始まり、950通を超えるメール交換と複数回のミーティングでの周回の準備を経て、11月に参加者200名を超える第9回の「高専カンファレンス2009秋 in 東京」が盛大に行われた。2010年10月にも同校で第17回の「高専カンファレンス2010秋 in 東京」が複数会場で並列発表(当日申し込み)を行うアンカンファレンス形式で開催された。2012年1月14、15日には、ふるさと自慢コンテストやブース展示を含む2日間開催の第40回の「新春・高専カンファレンス2012 in 東京」が同校で、1日目263名、2日目173名の参加者を得て、成功裏に開催された。この成功は第二世代の若手30名近くのスタッフ(実行委員長:茨城高専2007年卒の川崎結花さんほか2名)の半年近くに及ぶ2000通を超えるメール交換と10回近くのミーティングによるエネルギー的な準備の成果である。写真2に発表とブース展示の様態を示す。2012年度も開催予定であり、年1回の総会的な大規模カンファレンスが定着したことは大変嬉しい。



写真2 新春・高専カンファレンス(撮影:大日向大地)

「EM 高専カンファレンス」の発行

2011年2月に、五十嵐邦明さん(群馬高専1998年卒、高専カンファレンス実行委員会副代表)が編集長となり、過去の高専カンファレンスの中から選りすぐりのテーマをまとめた、装丁も素晴らしい無料配布のオープンペーパー「EM 高専カンファレンス」(A4カラー28頁、3,000部)が発行された[4]。同誌の発行により、高専カンファレンスの認知度が高まり、その広がりが加速されたものと高く評価できる。現在、第2号の編集作業が進んでおり、6月の発行が楽しみである。

“起業家甲子園” ことのおこり

起業家甲子園は、ICT 分野における若手のベンチャー創業者や将来の創業・事業化を目指す学生が、自分たちが考え出した商品・サービスのビジネスプランについて、ICT ベンチャーを支援しているアドバイザーやベンチャー創業者からさまざまなアドバイスを受け、また、若手・学生相互の交流を行うことで、その向上を図るプログラムである [5]。

総務省と NICT は、2007 年に全国の高専の協力を得て、「頑張る ICT 高専学生応援プログラム」として、ICT 分野の担い手と期待される高専学生に対して ICT の魅力を伝え、高専生による ICT ベンチャー創業等を支援するためのプログラムを創設し、これまで、高専の授業の中でのビジネスプラン作成講座、ベンチャー創業者の講演、ベンチャー企業での研修等を実施してきた [6]。

2010 年度は、高専生が自ら制作したアプリケーションを起業家や ICT ベンチャーの人達の前で発表・交流し、また、学生相互間での切磋琢磨ができるように、プログラムを発展させ、Web 系を中心とする多くの ICT 企業の協力を得て、「ICT ビジネスコンテスト ～地域の宝! モバイルアプリ～」と銘打ったコンテストを開催した [7]。

2011 年度は、この「ICT ビジネスコンテスト」に参加した高専生に対する評価が非常に高かったことから、より多くの学生と交流を図り切磋琢磨できる場とするため、参加対象者を、高専生のみならず、大学院生・大学生や若手の企業人まで拡大して、テーマもモバイルアプリに限らず ICT 全般として、起業家甲子園として開催したものである。

起業家甲子園の地域大会から全国大会へ

起業家甲子園は、日本の各地域で大学等が主催する若手・学生を対象としたビジネスプランやサービスのコンテストまたは大学等での講座と NICT が連携し、それぞれのコンテストにおいて優秀であったチーム、また、講座から選出されるチーム等が、全国大会に出場する方式を採った。地域大会は、ICT 分野やベンチャー教育が盛んであったり、ビジネスプランコンテストの歴史がある全国 8 つの大学等で行なった。ほとんどの地域大会では、事前に多くの応募の中から選抜されているチームによる発表であるため、非常に高い水準の発表が相次いだ。各大学等での審査委員やメンターによる審査の結果、6 つの地域大会から全国大会

表 1 第 1 回起業家甲子園全国大会出場チーム一覧

賞	チーム名 「サービス名」	代表者	所属	地域予選会	担当メンター
	CrowdFlip「CrowdFlip」	稲垣光雄	舞鶴高専	公募	—
特	salonat 「美容業界の情報を整理してオープンにする」	白石真 田中浩司 霜田愛美	早稲田大	早稲田大学：早稲田大学ビジネスプランコンテスト	田島聡一氏 (株サイバーエージェント・ベンチャーズ代表取締役社長)
	「through pass」	宮本晃良 橋本亮	京都大学	京都大学：学生団体 CAMPFOR	福野泰介氏 (株 jig.jp 代表取締役社長 CEO)
	Team Cloud 「生活に溶け込む新世代クラウドサービス」	小川夏輝 上岡 真也 矢野 完人	奈良高専	高専プロコン (舞鶴)	高専プロコン (舞鶴)
特	MAPHIS 「歩いて広がる歴史の世界」	荒川ひかり 素手一平 難波隼也 福岡先生	松江高専	高専プロコン (舞鶴)	勝屋久氏 (勝屋久事務所代表/プロフェッショナルコネクター)
	U-moa 「Freetime オークション」	林田朋也 紺谷真悟 村田宗一朗	金沢工業大学大学院	慶應義塾学：KBC Idea Contest	本間真彦氏 (インキュベイトファン代表パートナー)
最	リディラバ 「みんなが社会問題をツアーにして共有・発信するプラットフォーム」	安部敏樹 松本憲彦	東京大学大学院	立命館大学 学生ベンチャーコンテスト	今野穂氏 (株グロービス・キャピタル・パートナーズ プリンシパル)

最：最優秀賞、特：審査委員特別賞

へ 6 チームが出場することとなった。

さらに、プログラムの目玉として、全国大会開催日までの間、参加チームごとに ICT ベンチャーを意欲的に支援している方（以下「メンター」という。）に担当メンターとなっていていただき、直接またはウェブ上でメンタリングを行うことによりビジネスプラン等をブラッシュアップし、全国大会に臨む方式とした。メンタリングは、各メンターが、各地域でのコンテスト等にアドバイザーや審査委員として参加し、その中で自分が応援・支援したいチームについてメンターとして立候補する方法とし、また、全国大会当日も担当メンターとしてコメントすることとした。このようなこともあってか、各チームに対するメンタリングは、発表方法、事業化のためのアドバイスから事業を展開していくに当たり有益となる関係者の紹介まで非常に熱心に幅広く行われた。

また、地理的条件等により地域大会に参加できないチームのため、全国大会参加チームを公募する方法も実施し、公募大会を通過したチームが、全国大会へ出場する道も設けた。公募には、全国から 5 チームが応募し、メンターによるネットも活用した審査の結果、舞鶴高専の Crowd Flip チームの全国大会への出場を決めた。

最終的に、表 1 に示す 7 チームが全国大会へ出場することとなった。

起業家甲子園全国大会の模様 [8]

全国大会は、2012 年 3 月 6 日、東京大手町の日経カンファレンスルームで開催された。当日は、7 チームのメンバーとメンター 11 名のほか、審査委員 8 名、

協賛をいただいた ICT 企業からの新規事業に従事している社員や人材育成を担当としている社員、また、出場チームの応援団を含む約 80 名が参加した。

審査はチームごとに、7 分間の学生による発表、メンターや来場者によるアドバイス、審査委員による質疑応答 5 分間の計 12 分間で行われた。全国大会出場が決定して以降、学生がメンタリングにより練ってきたビジネスプランについて、ビジョン・ビジネスモデル・ターゲット・市場性・革新性・実現性・将来性・収支計画（直近 3 カ年程度）等の項目を中心に、動画によるデモを交えた発表が行われた。

いずれの発表も、学生が日頃から感じている社会や地域に対する問題を解決するため、ビジネスプランを練り、プログラムを組み上げたものであり、学生たちの熱い思いが伝わり、発表資料も分かりやすく、素晴らしいプレゼンテーションが競われた。メンター等によるアドバイスは、ビジネスプランをより良くする観点から行われ、大きな拍手がおきるなど厳しい中にも温かい応援となって、司会者の適切な誘導もあり、会場が一体化する和やかな雰囲気の中で質疑応答が進められた。

審査は、審査委員 8 名により、自分が投資したいチームに対する仮想投資額の総計で争う方式により行われた。各チームとも非常にレベルが高かったため審査に苦労したが、最優秀賞にはチーム「ディラバ」の「みんなが社会問題をツアーにして共有・発信するプラットフォーム」が、審査委員特別賞にはチーム「salonat」の「美容業界の情報を整理してオープンにする」とチーム「MAPHIS」の「歩いて広がる歴史の世界」の 2 チームが選ばれ、さらに、協賛企業による各企業賞も選定され、交流会で順次表彰された。写真 3 に表彰式の模様を示す。会場にはデモ機も展示され、交流会では、それらを多くの参加者が操作して、質問するなど密な交流を深める姿が見られた。

高専生の出場チームは 7 チーム中 3 チームと約半数を占め、その発表と実装能力は高く、「MAPHIS」が審査委員特別賞を受賞したほか、各チームとも協賛企

業賞を受賞する健闘をしたことは評価に値する。

2011 年 3 月に行われた「ICT ビジネスコンテスト～地域の宝! モバイルアプリ～」に、出場した函館高専チームの「WAYA - わや -」は、幼稚園送迎バスの待ち時間をなくすための「携帯電話を利用したバスロケーションシステム」を発表したが、発表後も開発を進め、現在、β 版として公開し、幼稚園の父母から好評を得ているとの嬉しいニュースも届いている。

このような高専生の社会問題を解決したいとする意欲、継続する努力、実用化する能力は素晴らしいものであり、今後とも彼らの活躍に期待したい。

おわりに

高専カンファレンス、または起業家甲子園にかかわり、自分たちの力で世の中を動かしていこうとしている積極的な若者たちの活躍は非常に頼もしい。特に、日本のこれまでの知識詰め込み優先型の「いい大学目指せ教育」とは異なる、高専の鉄は熱いうちに打て型の教育「若年からの技術エリート教育」を現に受けている高専生の活き活きと活躍する姿には、いつも感動する。

現在の日本の閉塞感を打ち破り、激しいグローバル競争に打ち勝って、我が国を発展させることができるのは、「受験エリート」ではなく、自ら学び、自ら考える能力を磨いている若者たちであると確信する。

高専は 2012 年で発足 50 周年を迎え、これまでに 40 万人もの技術立国を支えてきた有能な OB を輩出してきているが、彼らが全国で展開される高専カンファレンスにアクセスし、世代を超えた 40 万人高専 OB ネットワークを構築して、新しい産業・新しい価値を生み出して、技術立国をリードしていったと期待している。

今後とも高専人を中心とするやる気満々、自主独立精神旺盛な若者たちを応援し続けたい。読者の皆様にも彼らの支援をお願いする次第である。

参考 URL

- [1] 高専カンファレンス Wiki : <http://kosenconf.jp/>
- [2] t-cup チャレンジ時の甲子園 in 小金井 : <http://t-cup.nict.go.jp/>
- [3] 高専カンファレンスエフェクト : <http://kceffect.org/>
- [4] 高専カンファレンス実行委員会 +EM ZERO 編集部, 「EM 高専カンファレンス」, (株) マナスリンク, (2011) 28 頁.: <http://www.manaslink.com/em/emzero/em-kc/>
- [5] 起業家甲子園 : <http://www.venture.nict.go.jp/koshien>
- [6] 頑張る ICT 高専学生応援プログラム : <http://www.venture.nict.go.jp/venture/ICT>
- [7] 頑張る高専 ICT ビジネスコンテスト : <http://www.venture.nict.go.jp/contest/venture>
- [8] 起業家甲子園 Ustream : <http://www.ustream.tv/recorded/20918028>



写真 3 第 1 回起業家甲子園全国大会表彰式